

美濃市立牧谷小学校

活動の種類 (複数回答可)	健康・安全 奉仕 国際理解・親善 その他 ()
活動の単位	全校 学年 委員会 クラブ その他 ()
教育課程上の 主な位置づけ	教科 道徳 特別活動 総合的な学習 児童会・生徒会活動 委員会・部活動 学校行事 その他 ()

1. 活動テーマ

思いやりの心を育み、奉仕の心を育てる福祉教育

2. 学校紹介

本校は、美濃市の北西部に位置し、豊かな自然に恵まれている。校区は清流板取川沿いに広がり、古くは美濃和紙の産地として栄えてきた農山村地域にある。市の学校再編成により開校5年目を迎える新設校である。

「和紙の里学校」として、地域講師の協力のもと全学年が紙すきを体験している。特に4年生は総合的な時間において、原料となるこうぞの刈り取りや皮むきを体験したり、6年生は自分で卒業証書用和紙をすいたりする活動も行っている。また、校舎北側の山にスマイルの森(学校林)を作って、植樹やしいたけ栽培など自然を大切にしている活動を行っている。

校区には、老人福祉施設的美濃北デイサービスセンターがあり、各学年が年間2回訪問し、音楽で学習した歌や器楽演奏を行ったり、児童が考えたゲームで一緒にあそんだりしてふれあう中で、高齢者の立場や気持ちを考えて行動することを学んでいる。

3. 活動内容

○さまざまな人との交流を通して思いやりの心を育てる活動

(1) 福祉施設訪問活動

校区にある美濃北デイサービスセンター(老人福祉施設)に、各学年が年間2回訪問して利用者とふれあい活動を行っている。活動内容として、多くが学校で学習したことを発表したり、ゲームを行ったりしている。このほか5年生では、利用者がデイサービスセンターからもみじ狩りに出かけた際、もみじ狩りの場所を訪れ介助を行った。

特に6年生は、総合的な学習の時間において、「ふるさとの福祉」をテーマに学習しているため、他学年よりも多く美濃北デイサービスセンターを訪問している。年度当初に利用者とペアをつく



運動会演技披露：3年



もみじ狩り：5年



魚つりゲーム：6年

り、ショッピングセンターでの買い物介助、暑中見舞い・年賀状のやりとりなどを行っている。また、校区近くにある陽光園（障がい者支援施設）にも訪問して障がい者ともふれあい、相手を尊重する心を育てている。

両施設には、児童が作成した運動会の案内状を届けた。今年度は陽光園からの参観があり、児童の接待係りが対応していた。

12月には、太鼓クラブも陽光園を訪問し、太鼓の演奏を披露するとともに、利用者のところに太鼓を持っていき叩いてもらうといったふれあい活動も行った。

(2) 保育園との交流

本校校区には、下牧保育園、牧谷保育園の2つの保育園がある。11月には、両園に児童会健康委員会がそれぞれ訪問し、年長児に対して歯の磨き方を教える活動を行った。4月から入学する小学校の児童から教えてもらうことで、楽しそうに活動することができた。



また、同月に就学時健康診断、2月の入学説明会を実施するとき、年長児と1年生が交流する授業を行ったり、5年生がお世話をし一緒に遊んだりする活動も行った。年長児の兄や姉もいることから、緊張感もほぐれて楽しく触れ合うことができる時間となっている。

このほか、年長児が保育園から来校し1年生と遊んだり、2年生が地域探検において各園を訪れ年長児と遊んだりするなど積極的な交流を図っている。

(3) クラブ活動

本校のクラブ活動では、4つの講座を開設している。それは、ふるさと太鼓、ふるさと工芸、ふるさと陶芸、ふるさと写真である。どの講座も地域の高齢者の方に講師を依頼して行っている。講師の先生方の技術指導に児童はあこがれをもつとともに、地域にこんなすごい人がいらっしやると地域に誇りをもつこともできた。また、地域に住むわたしたちのために指導してくださることに感謝の気持ちを持ち、自分も地域のために何かしたいという気持ちも生まれてきた。



(4) 地域行事への参加

校区にある上牧公民館主催の行事「ふれあい祭り（文化展）」に、一人一人の児童の作品やクラブ（工芸〔ちぎり絵〕・陶芸・写真）の作品を出品し、地域の方々に見ていただいた。会場では、地域の子どもから高齢者までがいろいろな活動でふれあうことができた。

ここがポイント	地域の中の保育園児から高齢者までの人とふれあう活動を意図的・計画的に行うことで、相手の立場を尊重する心が育まれるとともに、感謝や地域を大切にすることをも育むことができる。
ここがねらい	自分から見て弱者に対する接し方や相手を尊重する子心を育てるとともに、地域講師の方のように高齢でも技術指導をしてくださる方にあこがれや感謝の気持ちをもつことができる。
効 果	福祉施設利用者や保育園児に対して、相手にわかりやすく説明したり、相手が気持ちよくなるように接したりすることを考えて行動することができるようになった。
学校等のコメント	1年生から6年間の計画的・継続的な地域への交流活動を行うとともに、校内における異年齢集団活動を充実させ、相手を思いやる心をさらに育てていきたい。

担当者氏名： 加藤 幸夫